

琴浦西小学校



# 夢の架け橋



令和2年 3月26日 NO. 21

## 琴西小学校の「桜の開花」です。

春のうららかな日和が続いています。暖かかった冬。その後3月もよい天気が続いたためか、運動場の桜も、例年より3・4日はやい3月25日に開花しました。満開は3月終わり頃になるでしょうか。4月初旬の、始業式・入学式まで、きれいな花をつけていて欲しいものです。

気持ちのよい日差しの中、4週間ぶりに登校した子ども達は、朝から元気に運動場で遊んでいます。友だちに久しぶりに会えたのがうれしいのでしょうか。教室からも、笑い声が聞こえてきます。子ども達の元気な姿があつての学校です。静かだった学校に再び息吹が吹き込まれました。



**「友達っていいな。」「学校っていいな。」「勉強も運動も、みんなとするから楽しいな。」**

わずか3日の登校ですが、習っていないところの勉強を進めたり、運動をしたり、新型コロナ予防のために、もう一度「手洗い・うがい」の徹底をしたり、生活習慣をきちんとしたりすることの確認をしました。大切な3日間でした。

26日には修了式・離任式をしました。放送での式です。大勢の先生が転退職されます。テレビ画面を見ながら、悲しさがこみあげてきた人も多かったでしょう。最後にゆっくりと話をしたりお礼を言ったりしたかったに違いありません。転退職される先生方も同じ気持ちです。琴浦西小学校のみなさんのことをしっかりと胸に刻んで、今後がんばってくれることと思います。

混沌とした3月でした。みなさん自身の気持ちが、「友だちと遊びたい。」「外に出たい。」と揺れ動いた期間ではなかったでしょうか。

「**歩**」という字は。「**少し止まる**」と書きます。「止まる」というのは、「振り返る」「休む」「力を蓄える」ということです。3月は、「止まっていた期間」になるのかもしれませんが。でも、今までの生活や、友だちのこと学校のことを振り返ることができた期間だと思います。そして「当たり前」だと思っていた普段の生活が、どんなに「ありがたいこと」なのかを知ることができたに違いありません。毎日支えていてくれたお家の人への感謝の気持ちを、さらに深くもつことができたことでしょう。「止まる」ことができたから考えることができたのです。

4月からは、一つ上の学年です。次は、蓄えていた力を一歩ずつ踏み出して、歩いていく時です。



25日26日の2日間は、30分ずつですが、全学年運動で体を動かす時間を取りました。鬼ごっこやドッジボールなどを行いました。スッキリ！

新登校班での一斉下校です。交通安全や登下校の約束を確認しました。4月には新1年生が班に加わります。

### 卒業式 3月19日（木）



67名が巣立っていきました。卒業生と、保護者のみなさんと、先生方みの参加で、例年とは様子が違いましたが、温かい雰囲気いっぱいになったように思います。卒業生一人一人の態度や表情からは、成長した姿をお家の人に見てもらうんだという気持ちと、中学校へ向けてのやる気を感じ取ることができました。

「はなむけの言葉」で卒業生に伝えた内容です。

晴れの門出に際して、一つの言葉を贈ります。それは、「志をもって、万事の源となす。」という幕末の思想家吉田松陰の言葉です。何事もしっかりと志を立てることが、全ての始まりであるという意味です。「志 目標を心に決める」こと。

「ワールドカップでは、必ずベスト8に」という目標。  
ラグビー代表チームの大活躍には、日本中が湧きましたね。34才という年齢、166cmの小さな体で、大型選手に立ち向かっていった田中選手の言葉を思い出します。

『合言葉はベスト8』そのためには、練習しかありません。相手の2倍も3倍も練習をしました。『努力は人を裏切りません』

みんなが信頼で繋がり、ワンチームとなった時、何倍もの力を生み出しましたね。戦いから、私たちもパワーと感動をいただきました。



「地球環境保護に役立つ、安全で寿命の長い電池を作りたい。」という目標。

リチウム電池の開発で、ノーベル化学賞を受賞した、吉野彰先生の言葉です。研究は「99%の失敗と1%の成功」でした。始めてから受賞までには、35年の年月が流れていました。

吉野先生は言います。「目標を決めたら、いろんなやり方考え方で、チャレンジすることです。粘り強く。失敗を恐れてはいけません。」

そして、必ず最後には、「多くの方々のお支えのおかげで、受賞することができました。ありがとうございました。」という言葉がありました。